

順位	氏名（議席）	発言の要旨
1 1	杉山 幸宏（2）	<p>1. 中学校部活動の地域連携・地域展開の本格実施に向けた課題と今後の展望について</p> <p>少子化の急速な進行は、富士市の中学校教育においても深刻な影響を与えています。</p> <p>かつて中学校の部活動は、異年齢との交流や人間関係の構築を通じて生徒の自己肯定感を高める場として大きな教育的意義を担ってきましたが、今日では、単独校でチームを編成できない、顧問を配置できずに廃止せざるを得ない、設置できる種目が減少するといった状況が現実のものとなっています。</p> <p>令和6年10月に市が実施した、学校部活動や地域でのクラブ活動における意識調査では、在籍する学校に一番取り組みたい部活動がないと感じる生徒が増加傾向にあり、部活動以外の教室・クラブで活動している生徒や何も活動していない生徒も増えていることが明らかになりました。</p> <p>また、バドミントンやダンス、ピアノ、パソコンなど、現在の部活動にない種目に取り組みたいという生徒が多数存在することも示されており、生徒のニーズと部活動の実態との間には大きなミスマッチが生じています。</p> <p>教員の働き方という観点からも部活動は看過できない問題です。週休日の勤務や平日の時間外勤務の大きな要因となっているほか、令和6年度の静岡県運動部活動実態調査によれば、富士市において担当する運動部活動の種目経験がある教職員はわずか49.16%にとどまり、半数が全く経験のない種目を指導せざるを得ない状況にあります。</p> <p>こうした背景の下、国は令和7年12月に部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドラインを策定し、令和8年度から令和13年度までを改革実行期間と定め、休日については原則全ての学校部活動において地域展開の実現を目指す方針を示しました。</p> <p>これを受け、富士市においても令和8年3月に富士市部活動地域連携・地域展開推進に関する基本方針を策定し、令和8年8月以降、野球、サッカー、剣道の3種目を皮切りに、認定地域クラブとしての活動をいよいよスタートさせることとなりました。</p> <p>さらに、空道、アルティメット、和太鼓、Kポップダンスなど、これまでの部活動にはなかった新たな種目・活動の認定も予定されており、生徒の多様なニーズに応える新しい環境整備が着実に動き始めています。</p> <p>一方で、参加費の保護者負担、複数エリアにまたがる移動手段の確保、指導者の質と量の確保、まだ地域展開の見通しが立っていない種目への対応など、解決すべき課題も少なくありません。</p> <p>改革実行期間の初年度に当たる令和8年度の取組の現状と今後の展開について、以下4点を伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 令和8年度認定地域クラブの立ち上げ状況と今後の地域展開の見通しについて</li> <li>(2) 指導者の確保・育成とサポーター制度の整備について</li> <li>(3) 参加生徒の移動手段の確保と安全対策について</li> <li>(4) 認定地域クラブの大会参加について</li> </ol>